



割の百姓、長右衛門ちようえもんに一人の姉がいました。この人がある日、重い病気にかかりました。そして意識がなくなった後、福寿院の住職のまくら元にあらわれ、「私は、逸道禅師のぜん



▶ お茶ばあさんのお墓。「咳癒院がいゆいん智空ちくうぜん禪尼」と刻んであります

そくを治したおばあさんの化身です。死んだ後は人々のせきを治します。どうか、私の好きなお茶を供えてください」と告げて、息を引き取りました。

丁寧な葬式を済ますと、どこからか「我は、世の人々のせきの病を救おうぞ」という声が聞こえてきました。その後、せきに悩む人が墓にお茶を供えてお祈りすると、せきがすっかり治るようになったということです。

#### 横井はまさん（下横割）

以前は清水や三島からお参りに来る人がいたほど、せきが治ると言われています。毎年八月七日は、お祭りなのですが、その日は、近所の人だけでなく、わざわざ柏原（元吉原）からお参りに来る人たちもいるんですよ。皆さんには、ぜんそくに効くと言われているお札を渡しています。